

2023年11月26日
市内三教会講壇交換
宮崎清水町教会主日礼拝

詩編 37 : 1~6

マタイによる福音書 5 : 13~16 (聖書協会共同訳)

「地の塩、世の光」

<わたしたちに語りかけられた言葉>

今日は、市内三教会講壇交換ということで、宮崎清水町教会の皆さまとご一緒に、神さまを礼拝し、賛美できますことを、心から感謝いたします。この宮崎の地で、教会同士が共に交わりを持ちつつ、祈りつつ、伝道ができますことは、とても心強いことです。

それで今日は、「地の塩、世の光」との聖書の御言葉を、ご一緒に聞きたいと思いました。私たちが、共にこの宮崎の地で、塩として、光として、歩む者とされている。そのことを改めて覚えていきたいのです。

さて、今日読まれた、この有名な聖書の御言葉は、イエスさまが、「山上の説教」で「幸いである」との御言葉を繰り返した後に、続けて語られたところです。

この御言葉は、イエスさまの弟子たちと、イエスさまに付いて来た大勢の群衆に向けて、語られました。

そして今、私たちも、彼らと共に、イエスさまの弟子として、イエスさまに付いて来た者として、イエスさまの御許で、この御言葉を語りかけられているのです。

<地の塩、世の光>

さて、イエスさまは言われました。「あなたがたは地の塩である。」

塩というのは、食べ物の中に少しだけ入れるだけで、全体に溶けて広がり、おいしく味付けすることが出来ます。また、殺菌作用によって、腐るのを防止することができます。さらには、人間が生きていく上でも、塩分は欠かせません。

「あなたがたは地の塩である」。イエスさまは、ご自分に付いて来た者は、地の塩である、と言われます。その者たちは、塩とされ、罪人の世の中に入れられて、そこで周囲に、救い主イエスさまの福音の味を、恵みの味を、広げていきます。また、腐った世にあって、神さまの聖さを保ちます。このように、イエスさまに付いて来た者は、塩と同じように、この世になくなくてはならない存在となるのです。

また、イエスさまは言われました。「あなたがたは世の光である。」

光は、闇を明るく照らします。周囲を照らし、歩むべき道を照らすのです。

しかし、思えば。イエスさまは、まずご自分のことを、「世の光」と言われました。これは、ヨハネ福音書の御言葉ですが、こうありました。「私は世の光である。私に従う者は闇の中を歩まず、命の光を持つ。」(8・12)

…イエスさまは、罪の暗闇の中にいた私たちを、まずご自身の救いの光で、照らして下さいました。イエスさまに救われた私たちは、イエスさまの光に包まれて、イエスさまと一つにされました。そして、私たちもまた、イエスさまの光を受けて、その光を、暗闇の世に、放つ者とされているのです。

イエスさまは言われます。「私は世の光である」。そして、「あなたがたは世の光である」。こうして私たちは、イエスさまの命の光を与えられ、イエスさまと同じように、「世の光」と呼ばれる者になったのです。

<宣言として>

さてここで、私たちが、勘違いしてはいけないことがあります。

それは、イエスさまは、「あなたがたは、塩になりなさい。」「あなたがたは、光になりなさい。」そう命じられたのではない、ということです。

イエスさまは、「あなたがたは、地の塩である」。もう、あなたは塩だ、と言われたのです。

そして、「あなたがたは、世の光である」。あなたがたは、もう世を照らす光だ。すでに、光となっているのだ。そう言われたのです。

私たちを塩にして下さるのは、光にして下さるのは、イエスさま御自身です。

私たちはイエスさまの十字架の死によって、罪から清められ、豊かな味付けをされ、すでに塩とされたのです。また、イエスさまの復活によって、命の光を与えられ、すでに、その光を、この身に輝やかされているのです。

イエスさまは、ご自身の救いに与らせた者に、ご自分の十字架と復活によって、あなたは地の塩となっている。あなたは世の光となっている。そう、宣言なさったのです。

…私たちは、救われてもなお、弱々しく、愚かな、罪深い歩みをしています。そのことを思うなら、いいえ、私は、汚れを清める塩になどなっていない。私は、光輝いて暗闇を照らすような存在ではない。そう言いたくなくなってしまいます。

でも、私自身の弱さや、愚かさは、関係ありません。私がどういう罪人であったかを、イエスさまは百も承知です。だからこそ、私たちを罪から救う、イエスさまの十字架と復活の力が、私たちを塩に、光に、して下さい。神さまの力が、私たちを新しくして下さいなのです。

だから、イエスさまは宣言なさいます。「あなたがたは地の塩である。」「あなたがたは世の光である。」

<塩として、光として、歩むとは>

しかし、地の塩、世の光とされた私たちが、そのような自分をどう用いるか。それは私たちに委ねられています。塩を使わないままにして、世の中に美味しい味付けをしないことも出来ます。灯を升の下に置くように、光を上から覆って、隠してしまうことも出来ます。

私たちは、いただいたものを、そのままムダにすることも出来てしまうのです。

でも、イエスさまは、「あなたがたの光を人々の前に輝かせなさい」と言われます。

イエスさまは、実際の塩が、人の命を生かすために不可欠なように。実際の光が、人が暗闇を歩くときに不可欠なように。塩とされ、光とされた私たちが、塩として、光として歩むことは、この世において必要不可欠なことである、とおっしゃるのです。

今日のマタイ 8：16 で、イエスさまは、こう言われました。「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かせなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、天におられるあなたがたの父を崇めるようになるためである」。

ここに「人々が、あなたがたの立派な行いを見」るように、とあります。それによって、人々が、「天におられるあなたがたの父を崇めるようになる」のだと。

ここで言う「あなたがたの立派な行い」とは、私たちが、塩として、光として、世の中を歩む、ということです。

しかし、それは決して、清く正しい生活をするとか、何かを成し遂げるとか、人助けのボランティアをするとか、そういうことではありません。それも、もちろん大切なことです。

でもむしろ、ここで言われている「立派な行い」とは、もっと根本的に、私たちがなすべきことです。この「立派な」と訳されている言葉は、良い、美しい、すばらしい、という意味も持っています。立派な行い。美しい行い。すばらしい行い。

それは、この暗闇のような世の中で、私たちが、イエスさまにおいて現わされた、まことの神さまだけを、私の神として生きることです。この神さまにのみ寄り頼み、この神さまのみを礼拝し、この世の中を生きていく、ということです。

それこそが、イエスさまが「あなたがたの立派な行い」と言ってくるものなのです。それこそが、地の塩、世の光として歩む、ということなのです。

私たちが、地の塩、世の光として歩みなさい、立派な行いをしなさい、と言われるのは、そのことによって、「人々が、天におられるあなたがたの父を崇めるようになるためである」と言われていました。

私たちが、この世にあって、塩となり、光となる。

それは、悲惨な罪人であった私たちが、イエスさまに救われて、平安を与えられ、希望を与えられ、感謝をもって神さまを賛美し、礼拝していることです。

また、人生の悩みや、苦しみや、嘆きの時に。悲惨な現実打ちのめされる時に。私たちが、ただひたすら、神さまの名を呼んで、祈っていることです。

そのような、神さまを礼拝し、神さまにより頼り、神さまに祈りながら生きる、私たちの日々が。人生が。私たちの、この姿が。世にあって、周りの人々に、私を支え、私に語りかけ、私を生かして下さっている神さまの存在を、はっきりと指し示していくのです。

周りの人々は思うでしょう。「この人が、必ず礼拝に行くのはなぜだろうか。」「この人がいつも感謝しているのはなぜだろうか。」「困難の中で、この人が救いを求め、頼り、祈り続ける神とは、何者だろうか。」「この弱い人を、生かし、支えている神とは、何者だろうか。」

…私たちが、神さまを頼り、神さまに支えられ、慰められ、生かされていること。それは、そんな風に、周りの人々に、私たちの主なる神さまへの関心を、呼び起こすものとさせられるでしょう。

その時、私たちは、鍋に入れられた塩のように、混沌とした味気のない世界の中に、周りの人々に、神さまと共にある平安を、慰めを、希望を、じんわりと広げているのです。

また、闇の中で、確かな救いの光を見つめている私たち自身が、周りの暗闇の中にいる人々をその光へと導く、小さな灯（ともしび）とされているのです。

私たちは、イエスさまの救いに与り、罪を赦され、新しい命を与えられ、神さまと共に歩む者とされています。今までも、今も、これからも、神さまが共にいて下さることを知っています。私たちは、神さまの恵みに生かされる者であり、神さまなくしては生きられない者です。

そんな私たちが、神さまを礼拝し、賛美し、喜んで生きているその姿が。神さまに寄り縋って、泣きついて、祈っているその姿が。この暗闇の世で、周りの人々に、頼るべき神さまがおられることを、証ししているのです。そして、私たちをその御手で救い出して下さる神さまのご栄光を、現わすものとされるのです。やがて、周りの人々も、生きて働かれる神さまを知るでしょう。それが、私たちが地の塩、世の光とされている、ということなのです。

「あなたがたは地の塩である。」「あなたがたは世の光である。」

私たちは、この地で、イエスさまにあって、そのように歩んでいきたいと願うのです。

【お祈り】 天の父なる神さま

御子イエスさまの十字架と復活の御業によって、私たちを罪の汚れから、闇の中から救い出してくださったこと。そして、イエスさまの命の光をいただいて、私たちが、「地の塩、世の光」とされていることを感謝いたします。

私たちが、混沌とした、闇のような世の中で、福音の恵み豊かな風味を、広げていくものとなるのが出来ますように。イエスさまの光を受けて、灰かにであっても、闇の中にいる人々に、ここに救いの光があるということを、指し示すことが出来ますように。

神さま、この宮崎清水町教会に連なるお一人お一人が、ここであなたを礼拝し、また日々イエスさまと共に歩み、この地にあって、塩として、光として、歩めますように。

このお祈りを主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讃美歌】 新聖歌 300 「御恵み豊けき」（讃美歌 21-461）

【祝祷】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン